

調査員の性別が性別役割分業意識に与える影響について

—SSP2015 データを用いた分析—

○金沢大学 小林 大祐
統計数理研究所 前田 忠彦

1 目的

個別面接法では面接調査員の技術や習熟度などによって、測定に調査員間のバラツキが生じてしまうことがよく知られている。なかでも、「目に見える調査員の特徴」が、回答内容に一定の方向の偏りを生じさせる可能性については、海外の研究において調査員の人種 (Schuman and Converse 1971) や性別 (Kane and Macaulay 1993) が、そのような特徴に関わる意識や態度についての質問の回答に偏りを与えるという研究がある。ただ、日本の研究においては、調査員の特性と回収状況の関連に着目した研究はあるが (松岡・前田 2015)、回答内容への影響を検討した研究は少ない。本報告では、全国規模の無作為抽出調査データと調査員の基本属性を組み合わせたデータセットを用いて、調査員の基本属性、および調査員属性と回答者属性の組み合わせが回答に与える影響について、特に性別役割分業意識に焦点を当てて検証する。

2 方法

本報告で使用するのは、階層意識研究会が 2015 年に全国の 20 歳から 64 歳までの男女を対象に実施した、「第 1 回 SSP 調査 (階層と社会意識全国調査)」 (有効回収数 (率) 3,575 (43.0%)) の個票データに調査員 226 名の基本属性情報をマージしたものである。調査対象者が担当した調査員にネストした入れ子構造のデータに対して、性別役割分業意識を従属変数として、調査員の基本属性、特に性別の影響についてマルチレベル分析を用い検証した。

3 結果

分析の結果、「年齢」と「調査員男性ダミー」のクロスレベル交互作用効果が、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」を従属変数とした分析においてはプラスの有意な効果を示し、「夫が家事や育児をするのはあたりまえのことだ」を従属変数とした分析においてはマイナスの有意な効果を示した。これらの結果は、性別役割への肯定的な態度への年齢の正の効果は、男性調査員へ回答する場合に強まるということを示唆するものである。

4 結論

分析結果からは、高年齢者ほど性別役割分業に対して肯定的な態度を持っているにもかかわらず、女性調査員を前にした場合には、そのような意見表明は避けられやすいという可能性が示唆される。ただし、今回の分析においては調査員が担当した地域についてはコントロールして居らず、調査地域と担当調査員が交絡している。このため本報告の知見については一定の留保が必要である。

謝辞 本報告は JSPS 科研費 JP16K04030, JP25285147, JP16H03689, JP16H02045 の助成を受けて、SSP プロジェクト (<http://ssp.hus.osaka-u.ac.jp/>) の一環として行われたものである。SSP2015 データの使用にあたっては SSP プロジェクトの許可を得た。

文献

Kane, Emily W., and Laura J. Macaulay 1993 Interviewer Gender and Gender Attitudes, *Public Opinion Quarterly* 57(1): 1-28.

松岡 亮二・前田 忠彦, 2015, 『日本人の国民性第 13 次全国調査』の欠票分析: 個人・地点・調査員の特性と調査回収状況の関連『統計数理』63(2): 229-242.

Schuman, H. and J.M. Converse. 1971. The effects of black and white interviewers on black responses in 1968. *Public Opinion Quarterly* 35:44-68.